



2021年5月11日

各 位

会 社 名 デリカフーズホールディングス株式会社
代表者名 代表取締役社長 大崎 善保
(コード番号 3392 東証第一部)
問合せ先 取締役管理本部長 仲山 紺之
(TEL. 03-3858-1037)

連結業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

本日付「2021年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表した2021年3月期(2020年4月1日～2021年3月31日)の連結実績につきまして、前期実績値(2020年3月期(2019年4月1日～2020年3月31日))との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、当社は当該期間に係る業績予想を公表していないため、増減につきましては実績値との比較とさせていただきます。

記

1. 2021年3月期通期連結業績の前期実績との差異

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
前期実績値(A) (2020年3月期)	40,413	571	641	360	24円46銭
当期実績値(B) (2021年3月期)	31,725	△1,467	△1,032	△963	△65円30銭
増減額(B-A)	△8,687	△2,039	△1,673	△1,324	
増減率(%)	△21.5	-	-	-	

2. 差異の理由

当期連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う二度の緊急事態宣言の発令、各自治体による不要不急の外出自粛や店舗の営業時間短縮要請等、経済活動の停滞や個人消費の低迷が続く非常に厳しい状況となりました。

当社グループの主力事業であります青果物卸売業でも、主要な販売先である外食産業にて大幅に需要が減少し、当社の販売量が低迷する事態となりました。

このような事業環境の変容を重く受け止め、当社グループでは、仕入・在庫の厳格管理、廃棄ロスの徹底削減、物流ルートの再編、時間外労務費の縮小等、徹底した効率化を実施して損益分岐点の低減に努めました。

徹底したコスト削減と新規の営業開拓により、9月より12月までの4か月は単月の経常損益を黒字回復させたものの、1月に二度目の緊急事態宣言が発令されると再び売上は低迷し、上期の赤字をカバーするまでには至りませんでした。

2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、合理的に算定することが困難であることから未定としておりましたので、今回、2020年3月期の連結業績の実績値との差異についてお知らせ致します。

なお、詳細については、本日開示しました「2021年3月期決算短信〔日本基準〕（連結）」をご覧ください。

以 上